

2023 年度

自己評価報告書

学校法人 晃陽学園

つくば栄養医療調理製菓専門学校

1 教育理念・目的・人材育成像

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	A	学園の建学の精神のもと、学校の特性を踏まえた理念、目的、育成人材像を定めている。	
② 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生、関係業界、保護者等に周知がなされているか	A	オープンキャンパスや入試説明会の来校時、入学ガイダンスの際に生徒に周知している。また校外研修先、就職先となる企業等にパンフレットなどを送付し、本校の理念や特色を周知している。日々の学生生活や授業においても理念や目的等意識できるよう関わっていく。	
③ 学校における職業教育その他の教育指導の特色は明確か	A	企業との面談を通して、業界及び社会のニーズを認識するよう努めている。	
④ 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	A		地域の特色を活かした学校として社会貢献や地域貢献を行い、高校卒業生のみならず、社会人も広く受け入れられるよう社会情勢に合わせた教育環境の体制を見直し、学び直しの機会を提供できるようにしていく
⑤ 各学科の教育目標、人材育成像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	A		

2 学校運営

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 目的等に沿った運営方針が策定されているか	A	教育理念に基づき運営方針を策定している。 職員会議等で方針を明確にしている。	
② 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	A	年度当初に、運営方針を踏まえた事業計画を策定している。	運営方針と自己評価項目の双方の視点から事業計画の策定をしていく
③ 運営組織や意思決定機能は明確化されていて、有効に機能しているか	A	校務分掌で役割担当を明確にしている。 様々な問題や課題については運営委員会や関連の委員会等において協議・決定し、職員会議で周知していくという組織的な体制が確立されている。	
④ 人事・給与に関する規定等は整備されているか	A	就業規則により整備されている。	
⑤ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	A	決裁方法を明確にし、それに則って決定している。	決裁方法に業務システムの運用も取り入れていく
⑥ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	B	組織化、体制化された対応が不足している	コンプライアンスの文書化、職員研修の実施等、共通の対応ができるよう整備に努める。
⑦ 教育活動に関する情報公開が適切になされているか	A	ホームページ、フェイスブックに加え、Instagram 等の SNS において授業内容や行事の様子を公開している。	今後も公開内容、および公開方法の充実に努めていく。
⑧ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	B	業務システム導入により効率化を図っている。	業務システムをさらに活用した業務の効率化を進める

3 教育活動

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	A	<p>養成施設の設置基準を満たす教育課程を基本とし、本校の教育目標に沿った科目配置について年1回見直しをしている。</p> <p>科目進行については、担当講師が年間授業予定表を作成し、それに沿った授業を行っている。</p>	教科間でも連携をとり、学生にとつて効果的な学習となるよう工夫していく。
② 教育理念、人材育成像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	A	<p>教育到達レベルを明確にし、充分な学習時間の確保に努めている。</p> <p>カリキュラムは修業年限に対応し、体系的に編成されている。</p>	社会環境の変化に合わせ、業界のニーズを取り入れながら対応できるよう努める。
③ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	A		
④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	A	<p>教育課程編成委員会を設置することにより、関連分野の企業及び有識者から意見を取り入れカリキュラム編成に活用している。就職指導、校外研修等でいただいた意見も積極的に取り入れていく。</p>	今後も組織的に意見を取り入れていく体制を継続する
⑤ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等の連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	A		
⑥ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	A	校外実習を行い外部関係者より評価をいただいている。	

⑦ 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	A	各学科カリキュラムに組み込み体系的に実施している。	
⑧ 授業評価の実施・評価体制があるか	A	各期に授業アンケートを実施し、その評価をもとに授業の改善を図っている	
⑨ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	A	単位認定、進級卒業判定の基準を入学時に生徒に周知し、学科ごとに年度末に会議を行い判定している。単位未修得になり得る可能性のある学生には、本人への指導・面談及び保護者への状況連絡も行っている。	
⑩ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	A	各学科で資格取得に向けた対策授業等をカリキュラムに取り込み、体制を整えて指導に取組んでいる。	卒業生に対する資格取得支援も組織的に行える体制作りに務める
⑪ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	A	それぞれの専門分野について、有資格で経験豊富な教員を配置している。	
⑫ 関連分野における業界等との連携において優れた教員の確保に努めているか	A	各業界と連携し専門性の高い講師確保の体制が整っている。	
⑬ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組みが行われているか	A	教員の指導力、資質向上につながるよう定期的に研修を実施している。	社会情勢に合わせ、教員に必要とされる内容の研修を継続する。
⑭ オンライン授業など社会環境の変化に対応した多様な教育形態が実施されているか	B	オンライン授業を含め社会環境の変化に対応した授業形態の体制作りに努める	多様化される教育形態に向けて環境づくりをしていく。

4 学生指導（私立専門学校等評価研究機構に記載有）

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 基本的生活習慣の確立のための取組みが行われているか	A	日頃から積極的に指導徹底している。心配のある学生には、改善につながるよう一時的でなく継続的に指導している。	
② 学生・保護者からの相談体制が整備されているか	A	日々、学生の状況を把握し、こまめに声掛けする等相談しやすい環境を整えている。問題があれば保護者にも連絡できる体制を整備している。	
③ 通学・就職指導にかかる支援体制は組まれているか	A	近隣の駐車場の確保や学生会館を設置し、遠方からの学生の通学に便宜を図っている。 求人情報は随時公開、周知し、個別面談等を通して就職指導をしている。	
④ 学生の安全管理のための取組等（災害共済保険、スクールカウンセラー、発達障がいのある学生等への支援など）が行われているか	B	専門的な知識を持った方による、学生の心理面等のサポートは必要と感じる。	学生相談窓口の設置に向けて検討をしていく。

5 学修成果

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 就職率の向上が図られているか	A	<p>オープンキャンパス等から進路選択についても説明し、入学前にも職業理解を深める課題に取り組み、仕事に対する理解が深まるよう指導している。</p> <p>本人の意思を尊重した進路選択ができるよう、面談をくり返し行い就職率の向上を図っている。</p>	実社会において必要なマナーやキャリアプランなどの研修を取り入れていく。
② 資格取得率の向上が図られているか	A	各国家資格取得に向けて、日々の授業を中心に意識向上につながる取り組みを行っている。また、対策授業も継続的に行い、模試などを取り入れ学びを深め資格取得率向上を図っている。	卒業生に対しても資格取得支援ができるよう体制作りに努める
③ 退学率の低減が図られているか	A	退学者は昨年度より減少している。	引き続き将来に向けて目的意識を高く持てるような関わり方に努める。
④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	A	卒業生や就職先との交流の中で活動状況の把握に努めている。また、在校生については面談等から把握している。	
⑤ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	A	卒業生を招いて、講演会・意見交換会などを実施し在校生の職業に対する意識付けを高めている	引き続き卒業後のキャリア形成、定着率等の情報収集に努め、教育活動の改善に活用していく。

6 学生支援

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	A	入学前から就職を視野に入れた説明を行い、職業理解、自己理解を深め就職活動が行いやすい環境作りに努めている。オンラインでの説明会等では場所の提供やそれに付随するサポートも行っている。	内部進学も含め、学生の選択肢が広くなるような支援体制作りに努める。
② 学生相談に関する体制は整備されているか	A	担任制であるため、相談しやすい環境である。この体制を継続していく。	
③ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	A	独自の奨学金制度はないが、オープンキャンパス等で公的な奨学金制度を紹介している。また、学費納入の相談は随時受付が出来る体制をとっており、各家庭の経済状況に合わせて期間を延長しての納入や分割納入を、相談・届出のうえで許可している。	
④ 学生の生活環境への支援は行われているか	A	アルバイトの求人情報を提供している。入学説明会時に、アパート・駐車場情報などを学生に伝えている。学生会館を設置し、入館者には緊急時マニュアルや生活情報を伝えている。昼食は給食により適切な食生活を提供している。	

⑤ 学生の健康管理を担う組織体制があるか	A	年度初めに健康診断を行っている。再検査や要診断と判断された学生には受診をすすめている。 分野ごとに必要となる予防接種や、細菌検査を実施している。	
⑥ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	A	コンテストや検定試験に積極的に参加できるよう指導と支援を行っている。	学生の成長につながるよう支援体制を充実させる。
⑦ 卒業生への支援体制があるか	A	就職後の相談や再就職に対する支援を行っている。就職試験、国家試験受験等の希望者には継続して指導を実施している。	卒業生対象の国家試験対策セミナーを実施していく。より一層フォローができるよう体制作りをしていく。
⑧ 関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等が行われているか	B	個別の対応をしているが、組織的なプログラムを検討していく。	資格取得に向けて対策支援などの強化に努める。
⑨ 保護者と適切に連携しているか	A	出席状況、生活態度、学業成績、体調等、情報共有に努めている。教育活動への協力や学校生活の改善等、必要な際には文書を発行して連携している。	
⑩ 社会人入学生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	B	社会人入学生を積極的に受け入れている。入学前は個別に入学相談ができる場を設けるなど、ニーズの把握に努めているため入学後の退学者も少ない。	今後も社会人入学生のニーズの把握に努める。
⑪ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか	A	高校からの依頼を受け、講師派遣やインターンシップの受け入れを積極的に行っている。	

7 教育環境

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	A	施設・設備は設置基準に準じている。 教育上必要な配慮をしている。	必要に応じて順次更新していく。
② 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	A	学内の実習施設において引き続き管理を適切にし、体制を整えていく。 校外研修については十分な教育内容の提供を受けられる実習先を確保している。	
③ 防災に対する体制は整備されているか	A	防災マニュアルを作成し、周辺地域の防災マップ等を取り入れ、学生、職員の周知に努めている。	
④ 感染症など健康危機管理は実施されているか	A	校内に危機管理委員会を設置し組織的に管理している。引き続き感染予防対策に努める。	感染症のみならず、変化の多い状況に合わせながら体制を整備していく。

8 学生の受入れ募集

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みが行われているか	A	各高等学校で行われる進路ガイダンスへの参加、広報職員の高校訪問を通して、学校説明や在籍している学生の状況を報告。学校の情報を正確に提供するよう努めている。	
② 学生募集活動は適正に行われているか	A		
③ 学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報が正確に伝えられているか	A	学生募集活動においては、正確に学校や学科の特徴、取得資格、就職状況を説明し、ミスマッチなく進路として選択をしてもらえるよう努めている。また、学校ホームページおよびパンフレットにも最新の実績を掲載し、誇張すること無く募集活動を行うよう配慮をしている。	引き続き、適正な学生募集活動に努めると共に、高等学校等接続する機関に対しての情報提供をさらに強化していく。
④ 学生納付金は妥当なものとなっているか	A	学生納付金は学則に則り募集要項に記載・徴収している。教材費や行事費等の実費についても、オープンキャンパス等で納入期日やおおよその金額を公表し、徴収時には明細を添付している。	
⑤ ソーシャルネットワークサービス (SNS)など学生のアクセスしやすい通信手段が整備されているか	A	Instagram、LINE 等のソーシャルネットワークを活用して情報発信している。	今後も SNS の発信方法を工夫しながら活用していく

9 財務

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	A	予算に基づく適切な収支バランスを保持している。	引き続き予算に基づく適正な収支バランスを保持できるよう、今後の18歳人口の減少などに対応する社会人入学者確保にも努めていく。
② 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	A	新年度が始まる前に予算・収支計画を作成し、理事会・評議員会で承認を得ている。	
③ 財務について会計監査が適正に行われているか	A	決算については、監事の監査を受け、理事会・評議員会で承認されている。	
④ 財務情報公開の体制準備はできているか	A		

10 法令等の遵守

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	A	法令を遵守し運営にあたっている。	引き続き法令を遵守した運営にあたる。
② 個人情報に關し、その保護のための対策がとられているか	B	パソコン上の個人情報は、セキュリティーのかかったサーバーで保管、管理している。書類については、キャビネットに保管・施錠している。	個人情報についての危機管理は、変化の速い社会情勢にあわせながら見直し、保護に努める。
③ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	A	自己評価の実施を経て、問題点と向き合い、改善に努められる環境である。	
④ 自己評価結果を公開しているか	A	公開している。	

11 社会貢献・地域貢献

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	A	地域社会と連携をとりながら社会貢献・地域貢献に積極的に取組んでいる。	
② 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	A	マラソンの救護活動などのボランティアが再開され、学生も積極的に参加している。	学生ボランティア活動の支援体制を検討していく。
③ 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	A	地域住民に対する公開講座や教育訓練の受託を積極的に実施している。	地域に対する公開講座等が行えるよう、引き続き体制づくりに努める。

2023 年度

学校関係者評価報告書

学校法人 晃陽学園

つくば栄養医療調理製菓専門学校

学校法人 晃陽学園 つくば栄養医療調理製菓専門学校は、自己評価報告書に基づき、以下の通り学校関係者評価委員会を実施致しました。

1. 開催概要

(1) 第1回学校関係者評価委員会

日 程 2023年8月25日（金）13:00～15:00

場 所 つくば栄養医療調理製菓専門学校 新館3F 階段教室

(2) 第2回学校関係者評価委員会

日 程 2024年3月1日（金）13:00～15:00

場 所 つくば栄養医療調理製菓専門学校 新館3F 階段教室

2. 出席者

(1) 第1回学校関係者評価委員会

氏名（所属）	選任理由
高橋 竜夫（稲敷広域消防本部）	企業・関係団体
村山 正利（公益社団法人 茨城県獣医師会）	専攻分野に関する有識者
伊藤 久美子（茨城県立中央病院）	企業・関係団体
関 博幸（株）つくば学園ホテル ホテル日航つくば）	企業・関係団体
安藤 謙一（茨城県職業能力開発協会）	企業・関係団体
湯原 幸子（茨城県立つくば看護専門学校）	専攻分野に関する有識者
松浦 希（社会福祉法人つつみ会）	卒業生
高田 峰夫	卒業生
加藤 和之	在校生保護者
箕輪 勝徳	在校生保護者

(2) 第2回学校関係者評価委員会

氏名（所属）	選任理由
高橋 竜夫（稻敷広域消防本部）	企業・関係団体
村山 正利（公益社団法人 茨城県獣医師会）	専攻分野に関する有識者
伊藤 久美子（茨城県立中央病院）	企業・関係団体
関 博幸（株）つくば学園ホテル ホテル日航つくば）	企業・関係団体
安藤 謙一（茨城県職業能力開発協会）	企業・関係団体
湯原 幸子（茨城県立つくば看護専門学校）	専攻分野に関する有識者
松浦 希（社会福祉法人つつみ会）	卒業生
高田 峰夫	卒業生
加藤 和之	在校生保護者
箕輪 勝徳	在校生保護者

3. 本校職員

氏名（役職）	氏名（役職）
今井 恭子（校長）	赤星 康彦（副校長）
川島 邦子（副校長）	野本 英雄（救急救命学科長）
斎藤 達也（専門調理師・調理師学科長）	矢口 旭（製菓製パン学科長）
壹岐 千夏（栄養士学科学科長補佐）	山本 勝也（事務長）
江口 千佳（総務課長）	広瀬 賢二郎（広報課長）
丸尾 佳代子（教務課長）	

4. 学校関係者評価委員からの意見、提言等

自己評価項目	意見、提言等
1 教育理念・目的・人材育成像	<ul style="list-style-type: none"> 意見、提言は特になく、適正と判断する。
2 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> 人材育成では指導者の学生ひとり一人に対する熱意や授業の改善工夫であるが、それに伴い業務量が増大すると思われるため、業務システムの導入は適切なことである。 業務のシステム化により、教員と事務の業務が混在して負担が偏らないよう業務区分を明確にする必要がある。 評価項目が多く大変であると思うが、運営方針と評価項目のつながりが分かりにくくまた、評価についても管理職、一般職等全体からの評価点となるとよいと感じる。
3 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育、実践的な職業教育の視点から、仕事をしていくうえでも振り返りながら継続していくことは重要なことである。モデル的に実施された内容を各学科でも実施していただきたい。 キャリア教育は自己の将来を見越した能力を身につけさせるため重要である。各学科で特質に応じたキャリア教育をますます充実させていただきたい。 卒業時の行事では展示発表が良くできていた。充実した授業や活動の成果と思われる。 授業評価は学生側も自己の学びを振り返り理解力を高めることが必要である。その取り組みを学生と一体となって行っていただきたい。

4 学生指導	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者差別解消法の改正に伴い、来年度から合理的配慮の提供が義務化されるが、障がいのあるものに対する特別な対応はあるのかどうか。 障がいの有無にかかわらず担任制の導入や学生ひとり一人との細かな指導の延長線上で更なる配慮をお願いしたい。 <p>回答：専門学校向けの講習会に参加している。実習等で身体を使う環境を合理的な配慮の上で提供する必要があるため、適切な関わり方について目標設定して取り組んでいきたいと考えている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門分野を目指す意識、身だしなみ等の指導の向上を求める。
5 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得率の向上について、合格率が高く素晴らしい結果である。
6 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生への支援体制についてどのようなアドバイスをしているのか、また新たな就職先としてどの程度の人脈があるのか。 <p>回答：来校の上相談がある際には、本校に届いている求人票を軸に、学校で学んだこと、今までの経験が活かせる業界においてリスタートできるよう支援している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職支援について、担当者のみのネットワークでは限りがあるため、教員が持っているネットワークを集め組織的に対応することで卒業生も今以上に相談しやすくなる環境になると思われる。 ・離職率の減少は学校側の指導の賜物である。 ・社会人入学生に対しても徐々に環境が整備されていると感じた。
7 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・意見、提言は特になく、適正と判断する。
8 学生の受け入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得の向上、退学率減少等の課題を踏まえて、入試基準を見直す等の改革も必要であると思われる。

9 財務	<ul style="list-style-type: none">光熱費等の削減についてどのような対応をしたのか。 回答：老朽化した空調等の交換により削減につながった。
10 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none">意見、提言は特になく、適正と判断する。
11 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none">地域連携への取り組みは高く評価できる。学生の課外活動は学校や学生のことを地域の方々に理解してもらう上で重要なことであり、学外での実践的な学びの経験や繋がりは能力や意欲を高めるうえでは効果的である。

以上、頂いたご意見をもとに、内容の改善、より一層の教育を行い、今後の学校運営に努めてまいります。